

第197号 発行日 平成25年6月4日

合格通信

今月の名言

自分で選んだ目標を目指し、そこに到達するために自分の心を支配できるのは、人間だけである。
これこそ、人間の知識で最高のものだ。

—林・レオン・ヒル—
(アメリカ作家)

これは、塾生のみなさんと、特進スクールを訪れてくれた、小中高校生の皆さんとお問い合わせいただいたお父さん、お母さんに向けて、勉強法や受験に役立つ話題をお届けする情報誌です。

マーカーペンと赤ペンの使い方

マーカーペンと赤ペンは勉強に欠かせない大切なツール、コツは使い方を統一させること。



理科社会などで教科書の重要事項、暗記しなければならない単語などにマーカーをひくことは、重要な事項が一目でわかり、そこだけを覚える作業をすればよいわけですから、効率的な学習に一役買います。しかし、曖昧な使い方では効果は半減します。使い方を統一させることでもっとメリハリのある有効な学習法となります。

歴史ならマーカーの色でピンクは年号、イエローは人名、ブルーは事件や歴史用語と種類によって分類します。英語なら新出単語、熟語はピンク、文法はイエロー、基本文は赤ペンというように使います。 そうすると教科書を開いたときに、ここには覚えなければならない人名が3つある、重要な事件が4つある、覚えなければならない単語が10個あるというように、一目でわかります。

また、教科書の長い文章にながながと線を引いている人もいますが、これも間違いです。**マーカーペンは長い説明に引くのではなく、単語にひきます。長い文章が重要なら、赤ペンで引きましょう。その際、赤ペンはボールペンではなく、赤鉛筆を推奨します。ボールペンはどうしても滲んだり、裏写りしてしまうからです。さらに青鉛筆も用意して、補足説明的な文章は青で引くといいでしょう。**

《ポイント》

マーカーペンは単語にひき、文章には赤鉛筆、青鉛筆を使うようにする。
色で重要事項の種類を分類する。